

中間案に対する主な意見

1 検討委員会 委員の意見

(1) 将来像に関する意見

- 持続可能とは、保全、修復、整備という基本をニュアンスとして表現することが適当。歴史文化の継承と発展、観光資源の保全と整備

(2) 戦略に関する意見

- 「滞在型観光の推進」が必要。観光消費を伸ばすためには、宿泊数を増やす必要がある。
- 各府県や市町村で取り組むべきことと、広域行政として戦略的に取り組むべきことを、メリハリをつけて提示することが必要なのではないか。
- 「文化観光」という言葉があった方がインパクトがある。
- スポーツ MICE なども含めた広域での MICE 振興が必要。
- アーティストとクリエイターは分けて記載すべき。
- 有形・無形の文化資源を活用したナイトタイムエコノミーの実現は重要な課題ですが、具体性をもって描く必要がある。

2 関西広域連合委員会 (R6. 9. 28)における意見

(1) 戦略に関する意見

- 戦略 2 の広域観光周遊に関して、関西の文化面での連携というのは、府県の枠を越えて、視野を広げて考えることが重要。地理的なつながりに加えて文化的なつながりに焦点を当てるとより魅力的なストーリーを構築できるのではないか。

3 関西広域連合議会 産業環境常任委員会 (R6. 10. 12)における意見

(1) 戦略に関する意見

- 外国人観光客が食事を残している場面に出会うことがあるが、ゴミの減少や SDGS の観点からも、日本の「もったいない文化」を発信していただきたい。
- ガストロノミーツーリズムにお金を出す人のペルソナをしっかりと把握して、取組を推進しないといけない。
- 大阪関西万博に向けて行われる各地でのイベント一覧を積極的に発信してほしい。
- 夜間のイベントがあると、それを見ようと人が集まるので、宿泊日数の増加や観光客の昼夜間の分散化、広域周遊観光にもつながる。ナイトタイムエコノミーについては、戦略 3 に書かれているが、より記載を充実させてほしい。
- 西のゴールデンルートを取組も進められているため、関西から西日本への導線

や隣接地域との連携の視点も取り入れていただきたい。

- 京都・大阪だけではなく、外国人観光客が地方部にも分散して周遊するシステムを作っていただきたい。また、関西各地の農業体験や環境学習を一つにまとめて、旅行会社とタイアップして売り込むような取組を関西広域連合で取り組んでいただきたい。

4 パブリックコメント (R6. 10. 21～11. 18)で出された意見

(1) 将来像に関する意見

- 「関西の未来は、あなたと共に The Future of Kansai with You」
(キャッチフレーズ案)

(2) 戦略に関する意見

- 多種多様な交通手段を利用した広域観光ルートの構築並びに広域連合地域内の交通インフラ整備の充実を図る。
- 広域連合地域内の公立の美術館で「関西広域連合美術館ネットワーク」の構築を行う。
- 海外の空港で動画を流したり、日本の主要空港で荷物を受け取るまでの間などに、デジタルサイネージなどを利用して印象が残る PR をしてはどうか。
- 文化芸術に関わる人材の育成方法をより具体的に検討すべき。
- 地方都市・過疎地における交通機関やインフラの整備、農家レストラン・民泊を活かした宿泊施設の充実等、その土地で暮らす人々がいきいきと生活できるよう施策を考える必要がある。
- ハラル認証のように、ヴィーガンやベジタリアンへの配慮についても証明を掲示できる制度があればよい。
- 観光客の夜間の外出や散策、飲酒などの行為が地域住民にとって迷惑になることがあるため、ナイトタイムエコノミーの推進は好ましいことではない。
- 観光事業者がそれぞれの職場で、従業員一人一人が無理なくその職場に合わせた SDGs に関わる取組を行う。
- 観光客は、旅行先の土地やそこで暮らす人々に敬意を払い、迷惑をかけないようにしながらルールやモラルを守って行動し、地域住民も観光客の方々を気持ちよく迎え入れられるよう努力が必要。